

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成22年度第1回瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成22年7月6日(火) 10時～12時2分
開催場所	高松市役所 11階 職員研修室
議 題	報告事項(1) 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョンの策定について 報告事項(2) 個別具体の取組状況について 協議事項(1) 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョンに新たに盛り込む具体的取組について 協議事項(2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長, 嘉門副会長, 関委員, 曾我部委員, 平尾委員, 好井委員, 吉田委員, 宮本委員, 佐伯委員, 三井委員, 岩瀬委員, 熊委員
傍 聴 者	0 人 (定員若干名)
担当課および連絡先	企画課 (839-2135)

会議経過および会議結果

会議の概要は、次のとおりです。

(会長)

当懇談会は、平成21年度に3回開催し、共生ビジョンを策定しました。22年度は、第2ラウンドとして、懇談会として何ができるか、協議していきたいと考えております。

本日の会議は、報告事項が2件と協議事項が2件ございます。まず、報告事項の1件目は共生ビジョン策定に至るこれまでの経緯の確認、2件目は、共生ビジョン策定を受けての個別具体の取組の事例紹介です。次に、協議事項の1件目は、本日の会議のメインピックであります、共生ビジョンに新たに盛り込む具体的取組、2件目はその他として、今後の予定等となっております。

報告事項(1)および(2)について、事務局から説明。

(委員)

取組事業一覧表の、連携する周辺町欄に○印がついていますが、これは、既に実施したということですか、それともこれから実施したい、という希望ですか。

(事務局)

取組事業によって、開始の時期は異なっていますが、今年度から、連携して実施していきます、ということです。

(会長)

国に対する説明の義務もありますので、既に始めたものなのか、これからやろうとしているものなのか、その点を事務局で整理しておいてください。

(委員)

この取組事業一覧表ですが、これは22年度の取組ということで、毎年度変わっていくのですか。

(事務局)

この共生ビジョンは、平成22年度から開始し、27年度までに取組む事業を掲載しておりますので、その間はこの事業を実施するということです。ただし、連携する周辺町が増えたり、新たな取組が増えたり、そういうことはあります。

協議事項(1)について、事務局から説明。

(会長)

事務局から、救急艇の配備および教員人事権を含めた権限移譲について説明がありました。新たに盛り込む具体的取組についての、事務局側からの提案として受け止めてください。これを踏まえて、当懇談会において、他に追加すべき取組を含めて協議をしたいと思います。

私からひとつ意見を言いますと、救急艇については、緊急時・災害時だけでなく、平常時に交流・連携ができないか、そういうプラス思考での発想もあっていいのでは、と思います。権限移譲についても、互いに助け合って仲良くやりましょう、というプラス思考で考えてはどうかと思います。

(委員)

船を遊覧等に使うのは良いと思いますが、救急体制の整備という点で考えると、速度も遅いし、波が高いと揺れることもありますので、ドクターヘリを使う等、迅速に運べる方法を考える方が良いのではないのでしょうか。

(委員)

直島町の住民感情からすると、救急艇で高松に来るよりも、岡山に行った方が早いこともあり、いろいろと異論が出るかもしれません。救急艇という表現でなく、ネーミングを違ったものにした方が、理解を得られるのではないのでしょうか。

(会長)

救急艇の取組だけを考えるのではなく、総合的に生活の利便性を考えることが重要と思います。

(委員)

この懇談会は、高松市民のみで構成されていますが、周辺5町の視点でも考えないといけないと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員)

制度的に周辺町の参加が無理ということであれば、発言権のあるオブザーバーとして参加していただく方法もあると思います。

(事務局)

周辺町の議会の了承を得るなどの手順を踏むことから、その段階では、周辺町の公式な意見は反映されます。その前段の懇談会としてどう反映していくかということについては、事務局としては、オール香川の視点で議論をお願いしたいと考えています。周辺町の意見を吸い上げる場としては、中心市と周辺町の首長と議長で構成する推進委員会があります。定住自立圏を早くから構成している、他の圏域においては、周辺町も含めた懇談会を設置しているところもありますが、組織が肥大化し、收拾がつかなくなっているという話も聞いています。本懇談会のメンバーには、高松市民としてだけではなく、全体的な視点での協議をお願いしたいと考えております。

(委員)

香川県民として考えるということですね。

(会長)

本日の会議に先立ちまして、委員の皆様から事前に意見をいただいておりますので、その意見の補足説明も含め、今後、具体的にどういう事業に取り組むべきか、順番に御発言をお願いします。

(委員)

高松市は少雨地域で太陽光発電の適地です。低炭素社会を目指すため、電気自動車を取り入れた施策を積極的に打ち出すのはいかがでしょうか。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

高齢者のセーフティネットワークについてですが、市民をいかに巻き込んでいくのか、という点が大切ではないでしょうか。行政が先に事業を進めてしまっていて、市民は後からという印象です。市民を上手に巻き込まないと、せっかくの良い事業が、形になっていかないと思います。救急艇の配備についても、既に予定が示され、進んでいるのかなと思います。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

中学校の総合体育大会には、これまでも三木町は「高松地区大会」に参加していたと思うのですが、それでも定住自立圏の協定を結び直さないといけないのか、と疑問に思います。また、小豆島にも、中学校は2校しかないと思うのですが、その2校は地区大会に出ずに県大会に出してしまうのか、という点も疑問です。新たに盛り込む取組については、特に具体案が思い浮かばなかったのですが、周辺5町にある中学校との交流ができれば良いと思います。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

救急艇の配備の予定等がすべて決まっているようですが、船が揺れないような方法とか、少しでも早く病院に搬送する方法とか、住民にとって最も良い方策をとってほしいと思います。

(事務局)

救急艇について補足させていただきます。新たな取組の候補として救急艇を挙げておりますが、もともとは、高松市内の島しょ部の救急患者の搬送のために整備しているもので、そこから利用を拡大させて、圏域内の島しょ部にも使えないか、ということが今日の御提案でございます。

従来利用している、民間の漁船の借上げでの対応等と比較した場合、安定性や緊急性という点で、サービスの向上になるのではないかと考えています。救急艇の整備を始めております。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

医療について、ドクターヘリであれば、島しょ部だけでなく、高速道路の事故等、陸上部での緊急搬送にも役立てることができるかと思っておりますので、是非、検討してほしいと思います。

また、医療分野では、香川大学の医学部と連携して、地域医療に携わる医師の養成を支援してほしいと思います。教育分野では、島しょ部の小中学生が山間部に行って生活を体験するとかの、交流・体験学習を進めてほしいと思います。地域公共交通の分野では、海上交通と陸上交通との連携をもう少し進めてほしいと思います。島から来られた方が、高松市内を自由に動けるようなネットワークに見直さないといけないのではないのでしょうか。また、生活に利用できるような小型のフェリーを、もう少し便数を増やす等の工夫はできないのでしょうか。

(委員)

医学生が卒業した後、それぞれの出身大学に残るという制度がなくなったので、香川大学医学部を卒業しても、香川県に医師が残らず、少なくなっています。同様に高松市民病院も医師集めに苦労しています。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

救急艇には大賛成です。これで、離島の救急患者への対応の中心となるものができました。船の中での救急医療の専門家を育てないといけませんが、それについてどうするのでしょうか。また、搬送時間のトータルを最短にするためには、どういう対応をすべきかを、救急艇を中心に検討するとよいと思います。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

瀬戸内国際芸術祭の開催中は、離島への船の便数が増えますが、芸術祭が終わると元の便数に戻る計画です。本当に島を活用しようと思えば、もう少しアクセスについて配慮が必要だと思います。それぐらい魅力のある島しょ部だと思います。その意味では、救急艇は島民にとっては良いのではないのでしょうか。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

山あいの田畑や、山林が荒廃しています。田畑については、手入れをする人がいないのが原因なので、手入れをしてもらいたい人と、家庭菜園等をしたい人の土地に対するニーズを、行政が中に入って、圏域内でうまく結び付けられないのでしょうか。山林についても、要請があれば無償で手入れ等をする個人の集まりがあると聞きます。こういうものも、行政が間に入って、うまく活用できないものなのでしょうか。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

共生ビジョンについては、構想は非常に大きなものがありますが、ひとつひとつの具体的取組を見ると、目の前の問題を順に潰している状況のように思えます。高松市の方向性として、こういう都市を作りたいという大きな方針を、もう少し明確にする必要があると思います。

また、移動図書館等、良い取組をしているのですが、そのメリットを享受している人だけにしか情報が周知されていないという状況がありますので、広報の在り方も大切だと思います。

それから、公共交通については、例えば船が桟橋に着いたとして、そこからバスに乗り換えるといった場合に、バス停が桟橋のそばにないとか、船の着く時間に合わせてバスが待機するとか、そういったネットワークができれば、住みやすくなるのではないのでしょうか。

(会長)

次の委員をお願いします。

(委員)

産業振興の取組みの中には、観光しかないのですが、高松市において、これから私たちがどういう産業で生活していくのかを考えないといけません。

(委員)

香川県は、第3次産業が約80%であり、こういう産業構造の中で定住してくためには、今後どうあるべきかを考えることが大切ではないのでしょうか。共生ビジョンの3つの視点の中で、どこに重点を置くのかを考えないと、議論がまとまらないと思います。

(会長)

今後の取組については、これから議論を深めましょう。協議事項(2)その他として、次回の予定について説明をお願いします。

協議事項(2)について、事務局から説明。

(会長)

委員の皆様から何か意見がありましたら、事務局の方にお寄せください。本日はこれで終わります。ありがとうございました。